

令和6年度 いのちの授業 事例集（中学校）【特別活動】

掲載数

73

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中 1	特別活動	食育「熱中症を予防しよう」	体の水分の役割を知り、熱中症を予防するための正しい水分補給を理解し実践しようとすることを目標とした。小学生と比べて中学生は熱中症が増加されている。熱中症について知り、水分の体内での役割や必要な水分量について養護教諭から説明を受け、自分に合った水分摂取のタイミングを考えた。また、食事からも水分が補給できることを知り、栄養教諭から献立などをもとにした話を聞いた。自分に合った飲み方や食べ方を考え、一人ひとり目標を立てた。	指導者は、担任、養護教諭、栄養教諭と給食センターの指導主事。映像や画像を活用することで具体的なイメージがもてた。
2 川崎市	中 2	特別活動	薬物乱用防止教育「OTCの正しい使い方と違法薬物について」	薬物乱用による心身の影響と依存症について理解し、違法薬物に手を出さないという行動選択ができる資質を身につけること、医薬品の正しい使い方を理解し、自らの健康を適切に管理、改善する姿勢を育てることを目的とした。薬物乱用の定義や薬の正しい使い方、市販薬の乱用防止について、法律で禁止されている薬物について動画などを交えた講義を受けた。	指導者は、担任、養護教諭、川崎幸病院の薬剤師。動画や画像を活用することで興味関心をひいた。
3 川崎市	中複合	特別活動	防災学習「火事からいのちを守る」	火災のとき、速やかに学校の校庭や体育館などの安全な場所へ避難することが最優先となる。煙体験を行い、実際に起こった場合を想定し、その時の行動を考えることができた。地震体験を代表生徒が行い、被害が大きくならないための迅速な行動が必要なことを学んだ。普段の生活の中でも、人のいのちを救うために自分たちに何ができるか考え出した生徒もいた。	講師は、消防署の職員。煙体験・地震体験などを使った訓練をすることで、具体的なイメージがもてた。
4 川崎市	中複合	特別活動	人権教育 人権フォーラム「日吉中ウェルビーイング～みんなが幸せな学校とは～」	生徒が中心となって一人ひとりの人権を尊重する学校づくりに向け、全校生徒で人権フォーラムを実施した。一人ひとりの人権を尊重すること「日吉中ウェルビーイング」の作成に向け、各クラスで「みんなが幸せな学校とは？」について学級会を行い、その様子をフォーラム内で紹介した。また、「全員が居心地がよい学校ってなあに？」というテーマを全校生徒で話し合った。 フォーラム後の生徒の振り返りでは、自分や周りの人など、一人ひとりの人権や幸せについてより考えを深め、大切にしていきたいという意見が多くあった。	学級会、人権フォーラムなどは生徒が中心となり、企画や運営を行った。学級会で話し合いを行った後に人権フォーラムを実施したことで、一人ひとりが考えをもち、参加することができた。

5	川崎市	中複合	特別活動	自殺予防、人権教育 「SOSの出し方、受け止め方教育」	川崎市で取り組んだ「SOSの出し方、受け止め方教育」を校内の実態を踏まえて、学年ごとにアレンジを加え、実施した。一人ひとりが大切な存在であること、SOSを出しても大丈夫なこと、レジリエンスの存在などについて生徒が気づき、考えることを中心に授業を展開した。 授業後の生徒の振り返りでは、困った時には誰かに相談するという内容が多く記載され、誰かに話すときのポイントや身近な相談できる人について考えることができた。	2学年：ストレスとその解消法（中学生／高校生編） 3学年：スクールカウンセラーを講師として、授業を実施した。
6	川崎市	中 1	特別活動	災害図上訓練 「DIG」	講師の話を聞き、自分たちが住む地域に起こりうる災害や被害を推測し、自分事として考えられていた。災害時に地域で被害が出るであろう箇所を話し合い、自分の命を守るための行動を具体的に考えている生徒がいた。	区の消防署より職員
7	川崎市	中 3	特別活動	性に関する教育	本校を卒業し、様々な進路に進む生徒たちが、正しい「せい」に関する知識をもつことで、生涯において、自分のことを自分で守り、相手のことを思いやる態度を養うことを目的とした。赤ちゃん人形の抱っこ体験をとおしていのちの誕生を身近に感じ、自分が育ってきたことを想像する、また将来親になった時の自分を想像することが出来ている生徒がいた。	区の保健師、助産師
8	川崎市	中複合	特別活動	共生＊共育 「SOS出し方・受け止め方教育」	川崎市教育委員会で作成した、かわさき共生＊共育プログラムの一環として全学年全クラスで「SOS出し方・受け止め方教育」の授業を行った。この授業では、誰にでも悩みがあることや他人に助けってもらうことの大切さなどに気が付き、生徒が自身の生きづらさを軽減する方法を知っていくことを重視して授業展開を行った。なお、死をイメージする直接的な表現は用いないこととした。	1年生・2年生 「ストレスをためこむと？」 3年生 「SOSをどこに出す？」
9	川崎市	中複合	特別活動	防災訓練・小中連携下校訓練	「自らの命は自らが守る、自らの地域はみんなで守る」というテーマのもと、大規模地震が発生したことを想定し、緊急地震速報を受信した際の対応並びに生徒の安全確保の対応措置の確立のため、全校一斉で訓練を行った。その中で、予測不能な事故を未然に防ぐため地域ごとの集団下校とし、その道の安全性の確認を行った。同時に、学区の小学校とも連携し、弟・妹がいて希望する家庭は小学校まで行き、引き取り訓練も行った。	全校一斉実施 学区内小学校と同時開催
10	川崎市	中 3	特別活動	食育・健康	受験期に不規則になりがちな食事面や、不安定になりやすい心身の健康面について、自分でできる健康管理を考えて実践できるようにするねらいから授業を行った。授業の中で、現在の自分の状況と比べながら、間食や夜食に適する食事や質の良い睡眠、ストレスへの対処法、感染症対策について学び、健康管理についての目標を立てて発表することで、実践しようとする態度を養うことができた。	本校栄養職員 本校養護教諭

11	相模原市	中複合	特別活動	「見上げる青い空」～いじめについて考える～	いやがらせメール、プロフ（プロフィール）、掲示板。匿名性が高いネット時代の“いじめ”は、ウィルスのように次々と感染していき、陰湿な仕打ちもまるでゲーム感覚。そして、誰が次のターゲットになるか分からない疑心暗鬼から、クラス全員がいじめる側に加わろうとする一方、ターゲットとされた子どもは 24時間365日いじめにさらされてしまう残酷さもネット時代の“いじめ”について考えていくDVD教材。	この授業の後に、講師に来ていただいて講演会を実施する。
12	相模原市	中複合	特別活動	人権教育 「人権作文の朗読」	7月と12月、朝活動の時間を利用して、人権作文の入選作品から選抜した作品を担当教員が朗読。回ごとに振り返りシートを作成し、いのちの大切さや人と人との関わり、心のありようなどについて考える機会としている。（計8回）	全学年全学級で実施。テキストは、「神奈川県福祉作文コンクール入選作品集」
13	相模原市	中 3	特別活動	防災教育「巨大地震や大雨などの災害対策について考える」	今後、間もなく起きると予測されている大地震についての映像を見た。その被害の大きさに驚嘆の声が多くあがった。地震の被害だけではなく、その後の生活やライフラインも描かれていたことから、地震が日本にもたらす影響の大きさに気づくことができた。また、それが起きたらどうするかを全員で考えることができ、日本の未来と自分たちの行動に見通しを持つことができた。	「南海トラフ大地震」
14	相模原市	中複合	特別活動	防災教育 「災害・二次災害から身を守る。」	・大雨・洪水に伴う二次災害から身を守ること。事前の対策、発生時の行動などをワークシートを利用し考えた。 ・動画「洪水から身を守るには」を視聴し、確認した。 ・「さがみはら 1 分間行動訓練」を確認した。 ・「近くの川はどこだろう」「ハザードマップを確認しよう」など身近なことを考えていた。	・ 全校生徒対象
15	相模原市	中複合	特別活動	性に関する指導 思春期出前講座 「命のはなし」	命のはじまり、性の多様性、思春期の心と体の変化、思春期を過ごすときのアドバイスなどの話を聞いた。自分のことも相手のことも大切だと考えることができる内容だった。	講師は南子育て支援センターの保健師。 1・2年生合同で行った。
16	相模原市	中 1	特別活動	思春期講習会 「いのちのはなし」	いのちのはじまり、思春期の心とからだ、心とからだに向き合うこと、相手を大切にすることについての講演を聞いた。相談窓口の紹介もあり、生徒が相談できる場を改めて知る機会になった。	講師は相模原市南子育て支援センターの保健師
17	相模原市	中複合	特別活動	「自他のかけがえない生命を尊重しようとする態度を育てす。また、加害者や被害者の予防に努める。」	講演内容： 前半は「想像力」をテーマに、アイスブレイクも含めた生徒参加型形式でいのちについて考え、その後実話の事件を題材にしたアニメーションDVDを上映し、被害者や残された遺族の心情などを通じて「いじめ」や「犯罪」、さらにいのちの大切さについて講演をとして考えを深める。教室にて感想・振り返り用紙の記入を行った。	講師：公益財団法人 神奈川被害者支援センター 犯罪被害相談員

18	相模原市	中 3	特別活動	「自分の人生を大切に。自分らしく生きていくために。」	講演内容： 現在、生徒たちは思春期の渦中にあり、様々な葛藤を抱える時期でもある。その中で、人との関係づくりに悩み、心とからだの変化に悩む姿が見られる。そこで、性に関する情報が氾濫する現代社会にあっても、性衝動を抑え、自らのからだを大切にすることで豊かな人生を送れるような力を講演を通して育む。 教室にて感想・振り返り用紙の記入を行った。	講師：東京医療保険大学教授
19	相模原市	中 1	特別活動	性に関する指導「思春期出前授業」	ねらい： 思春期の身体的・精神的特徴や性に対する正しい知識を知ると共に、命の大切さを再認識して自己肯定感を育てるきっかけを作る。 活動： 南子育て支援センターから講師を招き「いのちのはなし」を講演してもらう。講演後にアンケートを実施する。	南子育て支援センター 保健師
20	相模原市	中 1	特別活動	思春期の心とからだ	中学1年生を対象に、思春期出前講座として緑子育て支援センターの方に講義をお願いした。二次性徴期の心とからだの変化を中心に、不安や不調にどう向き合っていけば良いかなどをお話しいただいた。	緑子育て支援センター
21	相模原市	中 2	特別活動	「生きるためのこころの健康について」	保健師による妊娠・出産に関する話を通して、命の大切さを再認識し、自己肯定感を育てるきっかけをつくる。 本来11月に行う予定だったが、学年事情を考慮し、二月に実施予定。	緑子育て支援センター 保健師
22	相模原市	中 1	特別活動	いのちの授業	内容は、 ①赤ちゃんが産道をどのようにして通って生まれてくるのか等助産師という職業のことや、命の大切さについて ②命の誕生の確率から性の多様性について ③好きという感情やデートDVについて ④自立することと思いやることの本当の意味について のお話を聞いた。自立するとはという発問に生徒からは迷惑をかけない等の声が上がったが、「人を頼れること」という答えに関心をひかれる生徒がいた。	講師は助産師。 赤ちゃん人形と骨盤のぬいぐるみ。 パワーポイントでの講話。
23	相模原市	中複合	特別活動	避難訓練	昼休み中の火災発生時を想定した。予告をしない、自由時間の中での訓練に驚く生徒も見られたが、放送を聞き、校庭にすみやかに避難することができていた。その後は1年生は煙中訓練・消火体験、2年生は応急手当訓練、3年生は心肺蘇生法訓練を実施した。1年生は初めての煙中訓練を体験し、何も見ない、息がしずらいという声上がり、低姿勢で口をおおうことの意義を実感していた。	講師は消防署員。 全学年を対象に実施。

24	横須賀市	中 3	特別活動	薬物防止講演会	保健体育の授業で、薬物使用の身体への影響、依存の恐ろしさなどを学んできた。この講演会で、実際に薬物依存症に陥ってしまった方から、使用のきっかけや治療の話等を聞き、一度でも使用してしまうとやめることができない難しさを知った。違法薬物については意外と身近なところにある可能性があり、十分に気を付ける必要があること、もし、違法薬物の使用を誘われたとしても、しっかりと断ったり、その場から逃げたりするなどの方法で、自分を守ることが大切だと改めて学んだ。	横浜ダルクケアセンター
25	横須賀市	中複合	特別活動	薬物乱用防止教室	身近にひそむ危険な薬物がどのように危険なのか、中毒や依存とは何なのかを具体的な話を交えて講演していただいた。事後アンケート等から薬物の危険性を理解する声や、より良く生きることの大切さについて考える様子が見られた。	全校生徒と希望する保護者を対象に、精神科認定看護師の方を講師に招き、体育館にて資料スライドと講演の形で実施
26	横須賀市	中 3	特別活動	防災教育 「震災を知る」	本校では三年間を通して防災学習を行っている。一年次における学校での探究学習。二年次における台場、そなエリアでの学習。そして、防災学習の総まとめとして東北への修学旅行で防災教育を行った。現地では、東日本大震災における震災遺構として気仙中学校の見学や、津波被害に対する防災施設の見学を行った。初めて触れるリアルな被災地での経験に、生徒たちは真剣なまなざしで話を聞いていた。学校に戻った後、それぞれが見聞きしたことをポスターに著して掲示した。	陸前高田にて、震災復興ツアーに参加
27	横須賀市	中複合	特別活動	防災講演会「東日本大震災発生その時！～ある警察官の実体験から～」	東日本大震災から13年経った。生徒たちはこの時は幼少であり、この地震を記憶している生徒はほとんどいない。そこで、東日本大震災の実体験を聞き、改めて地震や津波の怖さを知り、さらに防災の意識を高めさせた。実体験の内容としては、当時、講師の方はJR常磐線に偶然乗り合わせていたが、乗客を非難させ、津波から守ったというものだった。	講師：いわき東署 警部補 学年：中1・中2・中3
28	湘南三浦	中 2	特別活動	生命の安全教育	心身の成長について正しく理解し、生命を尊重する態度を育てることを狙いに、誰もが性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にもならないような知識を身に付ける。	鎌倉市役所こども家庭相談課 保健師及び助産師
29	湘南三浦	中 3	特別活動	いのちの教室	卒業を目前に控えた中3に対し、ひとりひとりお互いを大切にし、尊重することの大切さ、人生設計を考えるようなきっかけになるようにする。	講師：鎌倉市こども家庭相談課より
30	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育 「地震からいのちを守る」	・災害（地震編）の発生時や発生後に起こる事例に対して、適切な対応ができるよう4つの体験学習を設定した。 ・体験を通して、身を守る方法や他者を助ける方法について理解を深めた。 ①消火器取扱訓練 ②濃煙体験 ③簡易担架作成 ④止血法体験を実施することで、災害時に自他のいのちを救うための行動を考えることができた。普段の生活の中でも、自分たちに何ができるか考える機会を与えることができた。	講師：消防署の職員。 防災用のテキスト。 参考資料：藤沢市消防局からの実施内容テキスト 全学年実施

31	湘南三浦	中 2	特別活動	防災教育「災害時に身を守るために」	防災への関心を高め、災害時における対処方法を学ぶことで、自分や他の人の命を守るために適切な行動ができるようにするために実施した。起震車体験では地震の恐ろしさを実感し過去の地震で被災された方々に対する思いを強めた生徒がいた。消火体験では実際に火事が起きた時には命を守るために自分にできることは何か深く考えることができた。	藤沢市 防災安全部危機管理課 藤沢市 消防局
32	湘南三浦	中複合	特別活動	「いのちの授業」	今年度は全学年を対象として、茅ヶ崎警察署生活安全課少年係職員を講師に招き、いのちの授業を実施した。授業の中で、「1ニュートンの勇気」という、いじめによる暴行で中学生が亡くなった事件をもとにしたアニメを視聴した。携帯電話で通報する勇気を持てなかった少年の姿を通して、いのちの大切さについて考えた。また、普段当たり前前に感じている「生きる」ということや、自分自身の周りの人々を大切にすることについて学ぶことができた。	講師 茅ヶ崎警察署 生活安全課 少年係長 教材 「1ニュートンの勇気」
33	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「かながわシェイクアウト」	防災意識を高めるために、「災害にあっても怪我をしない」「身近な人を助ける」「地域の防災力向上に貢献できる人を育てる」の3点をねらいとして、シェイクアウト訓練を行った。今回は避難行動の基本でもある「1、ドロップ 2、カバー 3、ホールド・オン」の動きを確認した。	
34	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「避難訓練」	防災意識を高めるために、「生徒の安全確保」「緊急時の職員対応」の2点をねらいとして、生徒には事前に避難訓練の告知をせず、休み時間に抜き打ちという形で実施した。また、訓練後は防災教育として石川県能登半島地震の被害状況を動画で視聴したり、茅ヶ崎市の液状化ハザードマップを確認したりした。	
35	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「大地震の発生、避難訓練」	地震による大津波警報が発令した際の、自己の安全確保と避難方法を学習した。訓練の流れは ①グラウンドに一次避難 ②校舎内に二次避難（グラウンドが悪天候である場合を想定しての屋内避難という設定）である。 生徒達は避難経路を確認し、自己の安全について考え「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」の原則通り遂行できた。また、隣接する小学校と合同で訓練を行う中で、小学生の誘導を適切に行うことができた。消防職員からの「中学生は地域に災害が起きた際に救助の中心となる」との助言には頷く姿が多く見られた。	小学校との合同避難訓練 講師 三浦市消防員
36	県央	中 2	特別活動	暴力をなくすため	「いのちの大切さを学ぶ教室」を通じて命の大切さについて考え、自分や他人の命を大切にしていこうという心を育む。実際の傷害事件の例を挙げて、被害にあった人の苦しみと加害者の実情を伝え、命の大切さについて生徒が自分ごととして考えた。	いじめ、暴力を題材としたアニメーション教材の放映、講話。 神奈川県警本部、厚木警察署署員
37	県央	中 2	特別活動	自然災害から身を守る	大雨や雷、竜巻といった、身近な自然災害から身を守るための手段や方法などを、DVDの映像を活用しながら生徒たちに考えさせた。	DVD

38	県央	中複合	特別活動	人権について考える	毎学期、人権について考える時間を設けており、12月は各学年にて道德の授業を実施。各委員会から生徒向けの活動を計画実施する週間を設けた。（6月・2月には全国中学生人権作文コンテストより「障害・いじめ」「福祉・支え合い」をテーマにした作品を紹介し、振り返りを集約するなど考える機会を持っている。） 回数を重ねる中で、他者の気持ちを自分事として捉え、行動を変えていきたいという振り返りが多く見られた。	・全学年実施 「世界人権宣言」「人権啓発ビデオ」「全国中学生人権作文コンテスト作品」など
39	県央	中 1	特別活動	生命と性の健康教育	体育館のスクリーンを活用し、講演会を行った。内容は、赤ちゃんが生まれるまでの講演で赤ちゃんの人形を順番に抱き、命の重さを感じながら講演を聴いた。また、性的同意について、心理テストをしながら行い、生徒の理解を深めた。生徒の感想には、「少しでも体に異変や心配な事があった場合は、必ず大人や看護師に相談するように気をつけたい。」「一人一人を尊重し、認めてあげる。」などと書かれており、講演を聴いた生徒は、自分の命や体を大切にすることについて考えることができた。	講師は、昭和大学助産学専攻科および健康医療学部教授。
40	県央	中 1	特別活動	生命教育	生まれたばかりの赤ちゃんと同じ大きさの赤ちゃん人形を抱っこしながら、講演を聞いた。おなかの中でどのように育ってきたのか、赤ちゃんが無事に生まれてくことは、宝くじに当たることよりもすごい確率で、命は尊いものであるということを学んだ。	講師は、昭和大学の助産学専攻科の教授
41	県央	中 2	特別活動	生命と性の健康教育	グループワークを取り入れながら、性暴力や性の同意について学んだ。また、講師の先生が実際に体験した中学生の出産の話は、安易な性行動により自分たちの未来が大きく変わってしまうことを実感したという声も聞かれた。	講師は、昭和大学の助産学専攻科の教授
42	県央	中 1	特別活動	自分を大切にしよう ～ストレス対処～	生活の中で感じるストレスの概要について学び、生徒の間でストレスを感じてつらい気持ちになってしまったときにどのように対処しているかを伝え合うことで対処方法の幅を広げた。今後に向けてSOSの出し方、友達の相談に乗ったときの対応などの援助希求行動について考えた。	学級担任による授業（参考資料）東京都教育委員会指導資料「SOSの出し方教育」
43	県央	中 2	特別活動	自他尊重の表現方法 ～アサーション・トレーニング～	ロールプレイングを通して、アサーション・トレーニングの3つの表現方法があることを体験的に理解した。その中でも、「自他尊重」の表現方法が最適であることを知り、実践的に生活の場で生かせるように取り組んだ。	学級担任による授業（参考資料）「アサーション・トレーニング」 平木典子 日本精神技術研究所
44	県央	中複合	特別活動	人間関係づくり	個性を認め、互いの得意分野を生かし「みんなで創り上げよう」を行事共通の柱として、全校のクラスが同一の課題に取り組んだ。 ①伸樹祭（合唱） 物語の進行（映像）に合わせて話合い、クラステーマになるアイテムを3つに絞り込む ②運動会 クラスの実態に合わせたPAを実施後ビーイングに取り組む。 ①②とも行事に向かう目的が明確となり、一致団結した中で知恵を絞りながら工夫するとともに、苦手意識のある仲間への配慮もできていた。	①9月に実施 ②10月に実施

45	県央	中 2	特別活動	薬物乱用防止教室 ～依存症について知ろう～	講師を招き、薬物乱用防止教室をおこなった。体験談を伴った、違法薬から合法薬（処方薬、市販薬）の使用について、薬物乱用の基礎知識、薬物乱用の危険性や身体への影響、誘われた時の断り方についてなど、具体例を示しながら講演してもらった。生徒は「市販薬でも用法容量を間違えるといのちの危機になることがわかった」「実際の薬物を見て、見た目ではラムネと間違えちゃう危険性があるなと思った」「仲の良い友達から進められたら断りにくいので、周りに相談できる人がひつようだと感じた」などの感想を持った。	講師・学校薬剤師 参考資料：神奈川県薬剤師会/大和市薬剤師会
46	県央	中 2	特別活動	薬物乱用防止	「STOP the 薬物！～断る勇気が未来をつくる」というテーマで講演をいただいた。薬物乱用の危険性を正しく認識することや自分を大切に気付き、薬物乱用の誘いを断れる的確な判断力を養うことを目的として講演いただいた。	講師：薬物乱用防止指導員
47	県央	中 3	特別活動	性教育講演会 「大事にしてほしい自分の心と身体」	「大切にしてほしい自分の心と身体」というテーマで助産師に、性についての悩み、デートDV、多様な性のあり方などについて講演していただいた。事前アンケート、事後の振り返りシートの記入も行った。	講師：芝レディースクリニック医師
48	県央	中 2	特別活動	性教育講演会 「生命と性の健康教育」	「生命と性の健康教育」をテーマに、予期せぬ妊娠や性感染症の予防、命の大切さなどについて講演をしていただいた。また、講演の中で赤ちゃんの人形を抱っこする体験をしたり、事例をもとにグループワークをしたりすることを通し、生命の尊さについて考えを深めた。	講師 大学医学部教授
49	県央	中複合	特別活動	「私たちの命の始まり・おなかの中の赤ちゃん・赤ちゃんの誕生」	私たちの命は30億年も前から継がれていることを知り、大人になると私たちの体の中でその「命のもと」をつくることができるようになってくることを理解させる内容だった。命のはじまりを砂粒で、赤ちゃんの重さを赤ちゃん人形で体感するなどした。寸劇でお母さん人形から胎児を取り上げるなど支援級の生徒にもわかりやすい授業展開だった。授業の内容を保護者と話し合える課題もあったので、自分のいのちのことを考える良い機会となった。またカンボジアの大学の先生方も一緒に授業に参加し交流もできたことも良かった。	中複合 (特別支援級)
50	県央	中複合	特別活動	防災教育	地震や火災等のリスクから「いのちを守る」ため、今年度は生徒に自分事としてとらえることができるよう防災教育を行った。1月に実施した防災教育では、綾瀬市消防本部の協力のもと1年消火器訓練・2年心肺蘇生の体験・3年煙体験を行った。今年度は3回の避難訓練を実施したが、生徒の感想からも「安全にあせらず行動することが大事。」など防災教育をとおして「いのちを守る」ための意識を高めることができた。	・自作動画 ・ワークシート
51	県央	中複合	特別活動	人権福祉講演会 「多様な性のあり方について考えよう」	自分だけでなく相手への思いやりの心や差別や偏見を許さない態度を育てるために、人権侵害、性的マイノリティ等について考える機会を設けた。セクシュアルマイノリティについての知識を得ることや、多様な性のあり方について学び、自己を考えるきっかけとなった。また、当事者の方の実体験を通して、自己だけではなく他者を認め、お互いを思いやる心を持つことに繋がったという生徒もいた。	【講師】アロマンティック・アセクシュアル、Xジェンダー当事者。 【教材】プレゼンテーションソフトによるスライド（動画含む）

52	県央	中 1	特別活動	いのちの授業	①性的成熟を自覚し始めるこの時期に、生殖にかかわる一連の過程を科学的に理解させ、生命の尊さを認識させた。 ②自分が誕生した過程と親や周囲の愛情を実感させるとともに、他人を大切にしていこうと（自他の生命尊重）を理解させた。	講師・助産師
53	中	中 1	特別活動	防災教育	南海トラフを震源とする巨大地震がいつ起きてもおかしくないと言われ続けもう何年も経つ。8月に宮崎県で観測された震度6弱マグニチュード7.1の地震を受け、南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震への注意が呼びかけられた。「いつか必ずやってくる大震災から自分たちの命を守っていくために何をしなければならないのか」、将来のために、じっくりと防災教育について学ぶ必要がある。その一環として災害への備えとして備蓄について考える時間を設定した。学年を体育館に集め、班ごとに家庭での備蓄「ローリングストック」について考えた。備蓄品の意味や意義を話し合うとともに、災害時持ち出し品の選択をグループで考え合う貴重な時間となった。	講師は学校職員
54	中	中複合	特別活動	防災教育「小中合同引き取り訓練」	①地震発生に伴い、机の下に潜るなど避難行動を取った。きわめて迅速に行動することができた。 ②学校からの避難放送を聞き、グラウンドに素早く移動し、クラスごとに整列。私語も少なく、真剣さが伝わる移動だった。 ③学級委員が点呼し、担任に報告。担任は学年主任に報告。学年主任が教頭に報告し、点呼終了。いる人といない人を丁寧に確認したので少し時間はかかったが、大事な時間だと思った。 ④あらかじめ用意した「引き渡し確認カード」と照合しながら、担任は引き取り者に生徒を引き渡した。引き取り者の集まりもよく意識の高さを感じた。 ⑤生徒は小学校に弟や妹がいる場合は、引き取り者と共にそのまま小学校に向かった。一部順序を間違えて、先に小学校に行き、中学校に来た引き取り者がいた。	中学校区に3つの小学校があるので、混乱が予想されたが、事前に連絡を密にすることによって初めての試みをスムーズにすすめることができた。 対象：同じ中学校区の小学校3校と中学校1校
55	中	中複合	特別活動	人権教育「人権メッセージを書こう」	①人権週間にあわせ、平塚市で行っている「人権メッセージ」の募集に、全校生徒が取り組んだ。 ②毎年行っていることなので、生徒は要領を得ていて、いじめや差別のこと、友達のこと、命の大切さ、みんなに伝えたいこと、訴えたいことなどをイラスト付きで作り上げた。 ③出来上がったものをまずクラスでお互いに見合い、投票等で最も優れたものを一点選び、担当者に提出した。学校代表に選ばれた作品は平塚市に提出され、展示された。 ④校内においても、クラスから選ばれた作品を職員室前廊下に掲示し、人権意識の向上に一役買うことができた。	全校生徒が作品づくりに取り組むことで「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、人権について深く考える機会となった。 対象：全校生徒
56	中	中複合	特別活動	防犯教育「自分の命を守るための行動」	校内だけではなく、校外で不審者に遭遇し、被害を受けそうになった時の身の守り方（護身術）を、平塚警察署職員の方からの講話と実演を通して学んだ。「いかのおすし」という基本的な心構えの紹介と、実際に腕をつかまれてしまったり、後ろから抱きつかれてしまったりした時の脱出方法を知るとともに、普段から人気のない道を避ける等、自ら危険に近づかないことが一番大切であることを学んだ。	【講師】 ・平塚警察署職員3名 体育館で平塚署の方の実演を見たり、自分たちでやってみたりすることで具体的なイメージがもてた 対象：1～3年生

57	中	中複合	特別活動	防災教育	本当に大地震を想定した避難訓練を学び、実践を行った。余震が続いているとき、放送設備が使えなかったとき、けが人が発生し動けない生徒がでたとき、パニックを起こす生徒が出たとき、熱いもので火傷が発症したとき、不安で過呼吸や腹痛など体調不良がでたときなど、イベントカードを作成し、その対応の仕方などを実践を通して行った。	
58	中	全学年	特別活動	防災教育 「火災時の避難について」	これまでの避難訓練と異なり、実際に防火扉や防火シャッターを閉めた状態での避難訓練を行った。生徒は事前に学級で、動画を視聴し、防火扉、シャッターが閉まっている様子や、避難時の注意事項について理解した。実際の避難時には、避難経路の狭さに驚く様子や、防火扉を通過する際につまづく生徒なども見られた。	
59	中	中複合	特別活動	防災教育 「あの日を忘れない」	夏休み中に日本各地で地震が相次ぎ、南海トラフにおいて大地震発生の可能性が話題になったことを導入に、自分事として災害について考えることの大切さを伝えた。生徒たちは、東日本大震災の後に福島県と宮城県でどのような生活が始まったかの体験談、「3.11 伝承ロード」の取り組みを知り、感想をまとめた。「いつどんなことが起きても自分の身を守る準備をしておきたい」「1日1日をかけがえのない時間だと噛みしめて、後悔のない毎日を送りたい」といった声が感想の中に多く書かれていた。	
60	中	中複合	特別活動	「生きているだけで100点満点」	いのちが一番大切であること、「自分のいのち」＝「自分の体、心を含む自分のすべて」であり、こうしていきていることにこそ価値がある「生きているだけで100点満点」であることを学ぶ。「ヒトの誕生」を振り返りながら、自分自身も小さな受精卵だったころがあり、子宮の中で成長し、命がけで生まれてきたことを自分のこととして感じてもらう。今回は「自分」にスポットを当て、今ここまで成長したことは、自分にたくましい生きる力があったからであり、自分自身がかけがえのない大切な存在であることへの気づきと、生まれてきてくれてありがたい気持ちを伝えてもらう。	講師 助産師 胎内のイラストパネル 子宮、胎児、新生児モデル 新生児人形抱っこ体験 小6～高等部性の参加
61	中	中複合	特別活動	110番教室	犯罪に関係する事案が発生した場合等、緊急時に警察への連絡の仕方を身に付けるとともに、防犯、安全意識を高めるための活動を行った。SNSによるトラブルの具体例を挙げてください、自分の身を守るためにインターネットで知り合った人と会わないという指導をしていただいた。また、動画を視聴し、110番に通報してからの流れを確認した。不審者役の警察官が乱入し、実際に110番通報をするという模擬演習も行った。自分の身の安全を守るための振る舞いを実践を踏まえて学習する良い機会となった。	大磯警察署員 複合学年：1，2学年
62	中	中2	特別活動	「思春期の心」 「距離を大切に」	思春期特有の気分の浮き沈みや、特に何もないのにイライラするようなことは誰にでもあることを伝え、自分の内面を見つめる機会とし、また、距離については、人間関係の距離にとどまらず、SNSとの距離についても迫り、自他を大切にすることを育てる。	各学級の状況に応じて、内容に軽重をつけて伝える。

63	県西	中複合	特別活動	平和教育 「戦没者に追悼と平和の願いを込めた千羽鶴を戦没者に献納する」	全校生徒で神奈川県の子供のために千羽鶴を献納する企画に参加した。ただ単に折るだけでなく、校内での交流を深めるために生徒会と協力して行った。異学年でチームを作り、教え合いをしたり平和についてテーマを決めて考えたりしながら千羽鶴を作成した。話し合いでは、難しいテーマではなく、日常の中で平和を感じるのはどんなときか・戦争はなぜ起こるのか・どうしたら戦争がなくなるのかなど誰でも考えやすい内容にした。話し合いが進むと、日常の自分たちに置き換えて考え、いかに自分たちが安全な環境の中で生活しているか気づくとともに改めて命を大切にしたいと考える様子が見られた。	神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活援護課による取り組みに全校で参加
64	県西	中複合	特別活動	防災教育 「地震から命を守る」	本校は、津波災害危険区域に該当しており、大地震発生時の基本行動の徹底が求められるため、無告知での訓練を実施した。年度当初に基本的な地震の避難訓練は実施しているため、生徒それぞれが自分事として考えて行動できるように無告知でなおかつ休み時間の実施にした。急な出来事で教室に戻ってしまう生徒や避難経路に戸惑う様子も見られた。訓練後各教室で振り返りを行い、改めて避難経路の確認や、教室においてあるヘルメットの持ち出しなどについて考える中で、中学生として自助だけではなく共助が求められることに気が付き、日常から自分の命を守るための訓練の大切さについて改めて考える様子が見られた。	
65	県西	中2	特別活動	防災教育：地震発生72時間のシミュレーションをしよう	通学路、ビル、エレベーターの中、家の中（トイレ、風呂場、寝室）にいた時に、何が起きるかをシミュレーションした。災害発生後72時間が生死の分かれ目といわれている。かけがえのない生命に感謝し、自分の命を守るためにどうすればよいかを考えた。また班に分かれ、時間の経過と共に何が起きていくかを考えた。家にいた時は閉じ込められる危険があることを知り、各部屋にいた時にはまずドアをあけるということに「なるほど」と思う生徒がいた。首都圏で地震が発生した場合、救助にあたるレスキュー隊が少ないという現実に驚いていた。食料や水の確保は最低3日は必要だということを意識し、自分たちにどんなことができるかを話し合った。知識が生き延びる知恵に結びつくことを強く認識していた。	参考文献「東京防災」 (東京都)
66	県西	中2	特別活動	生命と命	身体的な「生命」と社会的・精神的「命」の違い等を「その思いを受け継いで」を通して考えた。 「生命」も「命」も大切なものであり、そのために毎日を充実させていかなければならない思いを強くした。	「いのちの授業 ハンドブック」
67	県西	中2	特別活動	命の大切さ	自他の生命の大切さと、性を尊重していける生徒を育成することを目的に、小田原市立病院産婦人科の先生より講話をいただいた。	対象学年：中2 講師：小田原市立病院 産婦人科の先生

68	県西	中複合	特別活動	①人権教育 「人権に関する講演」（人権教育移動教室） ②防災教育 「防犯訓練」	①国境なき医師団の活動を紹介しながら、人権は、身近なことを伝える講演をしていただいた。生徒は、だれかの人権を尊重することは、自分たちにもできることがあることを学んだ。事後アンケートでは、「自分たちのできることを行っていきたい」など、これからの生き方について前向きな感想を記入している生徒が多く見られた。 ②不審者が校内に侵入した想定で、防犯訓練を行った。 「バリケードは作り方よりも、作ってあるという状況が大切である」という講師の指導のもと、生徒は教室でバリケードを作り、教職員は教室に不審者が行かないように説得する訓練を実施した。訓練後、各教室を視察いただき、バリケードの評価をしていただいた。生徒の危機管理意識の高まりを感じることができた。	国連NGO横浜国際人権センター会長 全校で1時間講話 小田原警察署防犯少年係スクールサポーター 全学年一斉実施
69	県西	中複合	特別活動	①防災教育 「避難訓練（火災想定）」 ②防災教育 「シェイクアウト訓練」	①調理室周辺から出火との想定で、避難訓練を行った。避難指示の放送の前に、各教室で火災発生時の避難方法、避難時の注意点などを確認した。校庭への避難、人数確認はスムーズに進み、ふざけたり騒いだりする生徒も見られなかった。 ②休み時間を使って、生徒に事前告知せず実施した。1年生は初めてなので多少の混乱は見られたが、帰りの学活で振り返りを行うことで、緊急時の行動を学ぶことができた。	防災担当職員を中心に 全職員で対応 全学年一斉実施 防災担当職員を中心に 全職員で対応 全学年一斉実施
70	県西	中複合	特別活動	防犯訓練	危険を予測し、起こりうる犯罪から身を守る方法などを考えるとともに、犯罪に直面した場面を想定し、危険を回避する行動を実践できることを目的とした。不審者を生徒に接触させない訓練を実施した。	全学年一斉実施
71	県西	中複合	特別活動	非行防止講演会	スマートフォンならびにSNSの使用における人権侵害の危険性について、生徒の日常生活の中から身近な事例を取り上げて学んだ。講話からSNSの使用における人権侵害が犯罪であることや、もっと大きな犯罪につながる危険性があることを学んだ。SNS上のトラブルや、学校のタブレット学習で他人のIDやパスワードで“なりすます”という事例があり、一人ひとり自分事として捉えることができた。生徒は日常生活に潜む問題について、自分事として捉え、犯罪から遠い所に身を置くことが大切だということに気づくことができた。	講師：県西教育事務所 社会教育主事兼指導主事
72	県西	中2	特別活動	性教育	1年次に行った性教育講演会をもとに発展させ今年度、「避妊について」、「胎児について」、「性について」考える授業を行った。今回の授業の前にアンケートを取り、アンケートの回答もふまえて実施した。生徒たちは、自分事として捉え、実際に性に関する悩みをもった友だちに対して、どのような声かけをするかなど、具体的に考えた。	指導者：町保健センター職員（助産師2名）
73	県西	中複合	特別活動	人権教育自己実現	道徳の内容「主として自分自身に関すること」の中でも「希望と勇気、克己と強い意志」を育てることを目標に、講演会を行った。「自分自身を最高傑作」と思うこと、「できる、やれる、きっとよくなる」など多くの印象的な言葉、自分で一歩踏み出すことの大切さ、ポジティブな考え方などを教わって、多くの生徒が勇気づけられ「何かやってみよう」という気持ちになれた。自分という「いのち」の可能性に希望をもてる講演会であった。	講師：北京五輪日本代表